

「ドラッグクイーン・ストーリー・アワー」に関する美術館の見解につきまして

東京都現代美術館

平素より東京都現代美術館の活動にご理解を賜り誠にありがとうございます。

当館で7月23日（日）に実施する「ドラッグクイーン・ストーリー・アワー ～ドラッグクイーンによるこどものための絵本読み聞かせ～」につきまして、様々なご意見を頂戴いたしました。大変有益なご意見をいただきましてありがとうございます。

皆様からいただきました、主なご懸念ご心配のご意見につきまして、お答えさせていただきます。

【なぜドラッグクイーンによるこども対象の読み聞かせを公的な美術館で行うのか】

【3～8歳を対象とするプログラムとして適切なのか。安全は守られているのか】

【ジェンダーに関する間違った知識や差別を助長するのではないのか】

【海外での「ドラッグクイーン・ストーリー・アワー」への反対デモの事例について把握しているのか】

東京都現代美術館で、7月15日より開催する「[あ、共感とかじゃなくて。](#)」展は、見知らぬ誰かのことを想像する展覧会として、家族や友人などの人間関係で悩むことも多い主に10代に向けて、共感（他人の感情を知る）だけではなく、自分の感情や感じ方を掘り下げる展覧会です。5人のアーティストが参加する本展覧会では、作品展示に加え、特別な鑑賞会や対話のイベントなど、複数の関連プログラムを開催します。「ドラッグクイーン・ストーリー・アワー ～ドラッグクイーンによるこどものための絵本読み聞かせ～」はその一つとして、展覧会のメインターゲットである10代より年齢の低い方に対象を広げ、こどもたちに馴染み深い絵本を通して、世界と人々のあり方の幅広さや違いについて考える機会を提供する企画です。

「ドラッグクイーン・ストーリー・アワー」は、2015年にサンフランシスコで始まり、世界各地で現地の団体が活動を行っており、日本では2018年より、公的機関を含む様々な場所で開催されてきました。読み聞かせを行うドラッグクイーンは、いずれもアーティストとして活動実績があるパフォーマーで、幼児教育の専門家から、対象年齢に合わせた言葉遣いや安全配慮などのトレーニングを受けています。読み聞かせをする絵本は、一般的に市販されているものの中から、それを読むドラッグクイーンと幼児教育専門家とで選んだものを使用します。こどもたちの安全に配慮し、尖ったピンヒールや露出が多い衣装は避け、大人を対象にしたショーで行うようなパフォーマンスやダンスは一切含みません。また、性的な話題を取り上げたり、性的な行為を想起させるような表現を用いることもありません。

対象年齢は3歳から8歳とし、保護者の同伴を必須としていますが、これは子どもたちがその年齢からすでに「女の子だから」、「男の子だから」という固定されたジェンダー概念に触れることが多い現状を踏まえています。今回の展覧会は主に10代に向けてのものです。もっと小さな子どもやその保護者を含む幅広い年代の方が、ジェンダーや個性の多様性に触れ、自分らしさを肯定する機会となることを意図し、本プログラムを関連イベントとして実施します。

海外で発生している「ドラッグクイーン・ストーリー・アワー」に対する反対運動などについては、美術館でも事例を把握しており、実施にあたっては、参加者の安全を第一に対応したいと考えております。

最後になりましたが、当館はあらゆる鑑賞者にかかれた美術館として、さまざまなプログラムを実施しています。プログラムによっては、魅力的に感じる方とそうでない方がいらっしゃるかもしれません。当館では、多様なプログラムがあることを知っていただき、その中から自由に選択できるようにすることで、幅広い価値観に出会える可能性を提供していきたいと考えております。

今後とも、東京都現代美術館の活動につきまして、ご理解のほどよろしくお願いたします。

以上